

パイロクスマンガン石

Pyroxmangite



分類：イノ珪酸塩鉱物
 化学組成： $MnSiO_3$
 産地：愛知県北設楽郡設楽町
 田口鉱山
 横幅：5.7 cm
 GSJ M05769

マンガンは有用な金属資源の一つで、マンガン電池の電極材をはじめ製鉄所で鉄を製錬する際にも使われています。バラ輝石などのマンガンを含む鉱石は外側が酸化されて真っ黒ですが、割ると鮮やかなピンク色が現れます。特にパイロクスマンガン石は濃いピンク色で透明感のある美しい結晶として産出し、^{すいぜん まと} 鉱物愛好家の垂涎的物です。

地質標本館の第4展示室に展示中のパイロクスマンガン石は、既に閉山した愛知県奥三河地域の田口鉱山で採れたものです。田口鉱山は戦後、菱マンガン鉱などで日本有数のマンガン産出量を誇り、日本の高度経済成長を支えました。ここは過去の海底堆積物がプレート^{りょうけ}の沈み込みに伴ってはぎ取られて付加体となった後、マグマの熱による変成作用を受けた、領家変成帯と呼ばれる地域に位置しています。

日本近海の海底にはマンガンノジュールやマンガンクラストというマンガンを含む塊や層が存在し、次世代の鉱物資源候補として注目されています。これらは海水に溶けていたマンガンが徐々に凝集してできたと推定されています。また、過去の海底や海水中のマンガン^{いっきょう}を起源に日本各地のマンガン鉱床が形成された、との研究報告もあります。パイロクスマンガン石の形成過程はまだ良く分かっていませんが、きれいな結晶を見ながら、石がどのようにできたのかを想像するのも一興でしょう。

(地質標本館室 小川浩 [文]、兼子尚知 [写真])